

近畿中国局フォレスターNEWS

水源林整備事務所と現地検討会を開催



分造地 高尾2413
森林作業道(トラック道)



分造地 高尾2414
路網接続ポイントの検討状況

三重森林管理署(5名)と森林総合研究所津水源林整備事務所(4名)は、10月2日に民有林と国有林が連携した森林整備等を検討している悟入谷国有林(いなべ市)と津水源林分収造林地(以下、分造地という。)で、路網整備に関する現地検討会を開催しました。

当日は、国有林側の悟入谷林道34林班支線終点から分造地高尾地区に移動し、水源林整備事務所が作設中の森林作業道を踏査し、路網の相互利用や木材運搬距離の短縮を目指した国有林の林道との接続の可否、森林共同施業団地設定の可否等について意見交換を行いました。

意見交換では、水源林整備事務所から「森林作業道は、今後の踏査により地形条件を把握し、国有林境まで作設する。」、三重署から「既存の悟入谷林道第一支線終点から水源林整備事務所が作設を計画する森林作業道まで、当署が森林作業道を作設することで接続が可能。」との意見が出されました。路網の連結により循環線形になれば、木材生産や更新作業における効率性の向上が期待できます。また、分造地梶ヶ谷地区、松尾地区と隣接国有林についても、地形が緩傾斜なことから、互いの作業の効率性を重視した連絡線形の作設が可能なの分かりました。三重署は、今後も水源林整備事務所と連携した取組を進めていきます。

水源林整備事務所とコンテナ苗育苗施設を視察

島根森林管理署(14名)と森林総合研究所松江水源林整備事務所(3名)は、10月15日に飯石森林組合のコンテナ苗育苗施設(雲南市三刀屋町)を合同で視察しました。今回の視察は木材価格の低迷が続く中、再造林コストの縮減が大きな課題となっており、コスト縮減につながると期待されているコンテナ苗について、生産状況等を把握するために企画しました。

同組合みどり推進課の瀧 造林総括から、①平成27年度から圃場を拡大し、約1.5haでコンテナ苗を含む約24万本を生産、②裸苗等の生産樹種は、ヒノキ、挿し木スギ、実生スギ、クヌギ、コナラ、抵抗性クロマツ等、③コンテナ苗の培土は、ヤシ殻ピートと鹿沼土を混ぜたものを使用、④コンテナ苗は全て150ccで、平成26年度にスギ8千本、ヒノキ1千本を試験栽培、平成27年度はスギ1万8千4百本、ヒノキ9千本を生産予定であるとの説明を受けました。

説明後、コンテナ苗の育苗状況、機械によるキャビティコンテナへの培土の詰込、出荷用苗の抜き取り及び根鉢のラッピングの様子を視察しました。

参加者からは、①普通苗との価格差を縮める必要がある、②植付箇所までの小運搬で根鉢が崩れることがあり、専用の運搬器具の開発が必要である等の意見が出されました。

島根署としては、これらを踏まえ、引き続き再造林コスト縮減のため、関係機関及び生産者等と連携し検討を進めることとしています。



コンテナ苗 育苗施設



機械による培土詰込

森林共同施業団地で意見交換会を開催



林業専用道



搬出間伐箇所

京都大阪森林管理事務所では、10月27日に由良川流域における森林共同施業団地の古屋国有林(綾部市)で、意見交換会を開催しました。

当日は、施業団地の協定締結者である森林総合研究所近畿北陸整備局、京都府のほか、綾部市、京丹波町、綾部市森林組合、京丹波森林組合等から23名が参加しました。

冒頭に、京都大阪所長から「本日の意見交換会を通じて関係者間の連携強化を図るとともに、施業団地の協定更新に伴う実施計画策定の準備を進めたい。」との挨拶に続き、京都大阪所から古屋国有林と開設中の古屋林業専用道(延長700m)の概要について説明し、開設現場を視察しました。参加者からは、「この林業専用道が近い将来、隣接する民有林の既設路網と連絡すれば、トラックによる出材が容易になる。」等の意見がありました。

次に、京都大阪所から架線集材による搬出間伐箇所の概要説明を行い、現地を視察しました。当該箇所は、急峻な地形で複層林であることから、下層木の保護及び林地の保全を図るため架線集材を採用しました。参加者からは、「今後架線集材を検討するに当たり、実際の現場を見れて大変参考になった。」等の意見があり、関心の高さがうかがえました。京都大阪所は、今後も意見交換会を開催して、施業団地の取組を進めていきます。

コンテナ苗による低コスト再造林現地検討会を開催

広島北部森林管理署、広島森林管理署、広島県は、10月30日に伐採と造林の一貫作業を行っている犬伏山国有林(安芸高田市)で、「コンテナ苗による低コスト再造林現地検討会」を開催しました。

当日は、森林組合、林業事業者、安芸高田市、森林整備センター、広島県、森林管理局、広島北部署、広島署等から55名の参加がありました。

まず、森林管理局次長から森林所有者が主伐・再造林への意欲が持てるよう、トータルコストを抑制するシステムの確立が必要との挨拶に続き、広島北部署から事業箇所の概要説明、広島県から伐採から造林までの一貫作業システムの説明及びコンテナ苗の特性の紹介がありました。

現地では、植栽器具の説明と枝条量に差がある2箇所でコンテナ苗植付の実演を行い、参加者は作業効率の良さを認識しました。

参加者からは「一貫作業地での収支は」との質問や、一貫作業の受注者から「作業は早いが苗の根鉢を崩さないようにするなどの注意が必要」と作業者ならではのコメントなど有意義な検討会となりました。広島北部署と広島署は、今後も広島県と連携し地域の林業振興に向けた取組を継続していきます。



犬伏山国有林



植栽器具を使った実演

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

今号では、国立研究開発法人 森林総合研究所 森林整備センターの整備局や同センター水源林整備事務所と連携した取組やコンテナ苗に関する取組を記事にしました。当森林管理局管内の国有林における、コンテナ苗の本格的な導入は、緒についたばかりですので、技術の普及には関係機関と連携した継続的な取組が必要だと思います。